

地域生活支援拠点等事業ってどんなことをしているの？

地域生活支援拠点等事業とは、障がい児者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築したものです。

【相談支援】障がい者福祉にかかわることで困ったことがあればいつでも相談ができます。相談支援事業所や町福祉保健課で対応します。

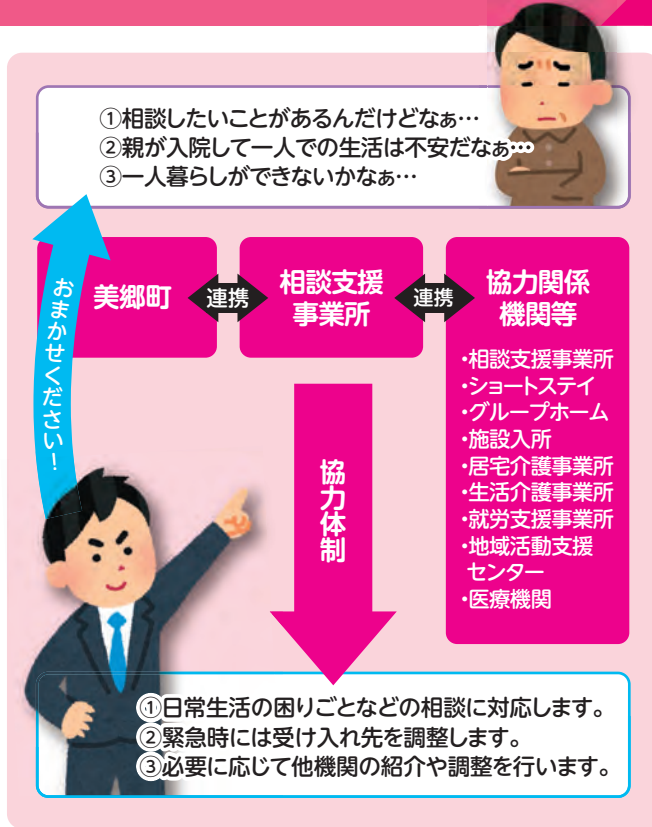
【緊急時支援】介護者が急病・死亡・ケガをした場合や障がい児者が被災した場合、虐待等の緊急事態が発生し支援が必要となる場合に障がい児者の安全な受け入れ先の確保を行います。

※事前に相談し、手続きを済ませておくことで緊急時に備えることができます。お早めに相談支援事業所などへご相談ください。

【体験の機会・場の提供】グループホームの利用や一人暮らし体験の機会などの提供について相談できます。

【専門的人材育成の確保・養成】どのような障がいがある方でも、お住まいの地域で安心した支援が受けられるよう、支援者の専門性の確保・養成を行います。

【地域支援の体制づくり】上記の役割など、地域で切れ目のない支援が円滑に推進されるように調整します。「相談支援事業所 あいなび」はコーディネーターとして、地域支援体制の整備を推進しています。



「相談支援事業所」へお気軽にご相談ください

| 相談先 | 相談支援事業所 あいなび | 地域生活支援センター のぞみ | 相談支援事業所 かくまがわ |
|------|--------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 対象者 | 身体・知的障がいのある方や そのご家族など | 精神に障がいのある方や そのご家族など | 知的障がいのある方や そのご家族など |
| 相談日 | 月～金曜日、第1・3土曜日 | 月～金曜日 | 月～金曜日 |
| 相談時間 | 月～金曜日：午前9時～午後4時 第1・3土曜日：午前9時～午後3時 | 午前9時～午後4時 ※相談は予約制です。事前に 電話で予約してください。 | 午前8時30分～午後5時30分 |
| 住所 | 美郷町六郷字馬場95-5 拠点センターあいなび内 | 横手市平和町3-30 よねやMGビル1階 102・103号室 | 大仙市角間川町字八幡前286-2 地域サポートセンター川音内 |
| 電話番号 | 0187(84)1208 | 0182(35)5781 | 0187(65)2003 |

問●美郷町総合支援協議会事務局(町福祉保健課内) ☎0187(84)4907

町公共施設のAEDに三角巾を配備しました

傷病者のプライバシーを保護し、ためらうことなくAEDを使用してもらえよう、町公共施設に設置しているAEDに三角巾を配備しました。

問●町総務課 総務班 ☎0187(84)1111



第39回秋田県ジュニア・グランドチャンピオンズスキー大会

(3月16日、17日
たざわ湖スキー場)

- 中学校1年男子 GS(大回転)の部 第2位
- 中学校1年男子 SL(回転)の部 第1位
田沢 颯汰 さん(美郷中)



美郷町民サッカー大会(室内の部)

(3月10日 美郷町総合体育館リリオス)

- 優勝 トゥリオンファーレレジェンド
- 準優勝 美郷中OB
- 第3位 bevitore
- 最優秀選手賞 柳川 和美 さん
(トゥリオンファーレレジェンド)

ボランティアありがとうございます

美郷町奉友会(戸澤勉会長)の皆さんによるボランティア活動として、4月12日に美郷町役場敷地内駐車場の清掃が行われました。ありがとうございました。



活躍・表彰おめでとうございます

※所属・学年は大会当時のものです。

令和5年度消防功労者表彰

- 消防庁長官表彰 永年勤続功労章
戸澤 靖幸 さん(琴平)
- 日本消防協会定例表彰 精績章
久米 春男 さん(上深井)



□(左)戸澤靖幸さん、(右)久米春男さん

第13回東北小学生選抜春季ソフトテニス大会

(3月9日 仙台市泉総合運動場テニスコート・シェルコムせんだい)

- 5年女子の部 第3位 齊藤 陽理 さん
(千畑小)



□(右)齊藤陽理さん

“美郷”で資源を循環

資源循環酒製造に係る試験品完成の報告

秋田県では町内の企業や団体と連携し、資源循環型酒造りモデル実証事業の一環として、廃棄されている酒粕を活用して日本酒をつくる取り組みが行われています。試験醸造第1号が完成したことを受け、合名会社栗林酒造店の栗林代表社員と秋田県観光文化スポーツ部食のあきた推進課職員が、3月19日に松田町長を訪れました。取り組みは、酒造りで発生した酒粕を原料に、株式会社美郷の大地で管理・運営している美郷町堆肥センターで酒粕入り堆肥を製造し、美郷酒米研究会のほ場に施用して栽培した酒米で、合名会社栗林酒造店が日本酒をつくり、地域で資源を循環させるというもの。令和4年度から始まった3カ年事業で、日本酒が完成したのは今回が初。最終年度である令和6年度は、SDGsを付加価値とした商品のブランド化と広い販路での輸出に向けて取り組んでいく予定となっています。



□(左)栗林直章代表社員



MISATOPICS

町の話題